

2020年度 園評価		つくし保育園
<b>保育目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身ともに健康な子ども</li> <li>自分で行動し考えることのできる子ども</li> <li>感動する心を持ち、豊かに表現できる子ども</li> <li>仲間の中にいることを喜び、仲間を大切にすること</li> </ul>	
○方法・環境    ○社会的責任    ○養護・教育    ○計画・評価    ○小学校との連携接続    ○安全管理    ○災害への備え    ○家庭との連携・子育て支援    ○職員の資質向上		
<b>実践・評価・反省</b>		
<p>・コロナウイルス感染症対策もあり感染症には十分に配慮していたが、1月にノロウイルスが流行し、胃腸炎の症状が1カ月以上治まらなかった。新しい環境になった事で、次亜塩素酸を使った消毒に躊躇する部分があった。しかし、胃腸炎対策には次亜塩素酸を使った消毒が必要だと感じた。アナフィラキシーショックを起こし、園児が救急車で運ばれたが、職員の判断・連携を適切に行えたと思う。</p> <p>・新園舎建設に没頭したかったこの一年。しかし、年度初めから、猛威を振ったコロナウイルス感染症。保育活動中に園児のみで行った夏祭り・クラス毎競技のみだった運動会・入れ替え制にした生活発表会、歩いて行ける目的地とした遠足・子どもの姿を加味した夜叉神峠・日帰りになったキャンプ・お泊りとほとんどの行事・園外保育が、今まで通りできずに変更を余儀なくされた。そんな中、見直せたからこそ見えてきた開催方法・内容の良さもあった。子どもたちが生き生きとした表情で楽しめているなら、今年度の内容でもいいのではないのかも感じた。コロナウイルス感染拡大の状況を把握しながらも、園で大切にしている方針と照らし合わせ、今後も行事・園外活動など検討していく必要があるのかもしれない。</p> <p>・8月から新園舎での生活が始まり、手探りでの新園舎の使い方や保育の仕方となった。今まで通りのダイナミックな遊びができるように、コロナ禍でも楽しめる夏の遊び、身体を動かせる遊び方など試行錯誤してきた。身体を動かす事で発散できる活動の工夫が必要だと考え、その為に、保育者と子どもで‘安全に楽しく遊ぶ為のルール’を考えてきた。幾つかのルールの中で、‘子どもたちが自由に遊べる空間’‘身体を動かして走り回っていい時間や空間’を模索してきた。保護者へのアンケートからは、客観的に見ると大人が把握していない危険性と事故になるであろう危険を感じているという意見があり、これまで同様子どもと一緒に約束事を考えていく事と合わせて、保育者が環境を整える・活動の順番・内容を工夫する事に留意していけると良いと思う。</p> <p>・日頃の保護者との関わりやアンケートの中から、子どもとの関わり方が分からない、送迎が苦しい、仕事と子育ての両立の大変さ、園への要求や不満・・・等、親の思いをどこまで受け止めて、どのように年齢ごとに大切なことを伝えていくといいのか。子育て観、価値観、育ってきた環境、捉え方、感じ方が一人ひとり違う中で、父母の思いをくみ取り、伝え方も考え保護者支援を行っていくことの難しさを感じている。</p> <p>・今年はコロナ禍で、例年受け入れしている看護学生の保育実習、梨大の「教育の現在」が中止となった。それに代わり両学校へ、職員が講師として出向き、「子どもの発達や遊び」について講演を行った。学生(相手)へわかりやすく伝えること等、良い経験となった。来年度、5月に梨大に再度出向くことになっている。</p> <p>・長年の夢であった新園舎が完成し、新たな歴史を刻み始めた。ここまで来るのには本当に長い年月が経ち、労力をそそいできたが、勤医協はじめ関係業者、理事、歴代保護者、歴代職員、地域の方々の熱い思いがあり無事に建設できたのだと感謝の気持ちでいっぱいである。休日にも関わらず、引っ越しの手伝いに来てくれた保護者のおかげで新園舎での生活が始まり、子どもたちも伸び伸びと楽しく過ごしている。木のぬくもりの温かい園舎、皆の思いが詰まった園舎で、子どものための保育を継承し、つくし保育園がこの場所に存在し続けられるようこれからも頑張っていきたい。</p>		